



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：外交に関するホセイニ外務報道官の発言 (8月26日付現地報道)

8月26日、定例記者会見にて。

1. NAM（非同盟運動）閣僚級会合の開催

キューバの第4回NAMサミットにおいて、イランが人権・文化の多様性に関するNAM閣僚級会合のテヘランでの開催を提案し、承認された。同会合は9月3-4日にテヘランで開催され、これまでのところ80の代表団が参加を表明している。

2. イラクに関するイラン・米協議

我々は協議のレベルを上げる必要性を感じておらず、本件に関して我々の立場に変化はない。

3. 革命ガードのテロ組織リストへの登録

革命ガードは国民の要請に基づく合法的組織であり、常にイランの領土保全と国民の安全を擁護している。かかるニュースは、米国政府のあてつけの政策に基づくものであり、こうしたアプローチはこれまでもあったし、9月のエルバラダイ報告が出される時期が近づくにつれ、こうした非難は増加する。米国は革命ガードに対するプロパガンダによりイラン国民からこれまで以上に嫌われることになることを知らねばならない。

4. イランの核問題

(1) (最近のイランとIAEAとの協議について) 我々は当初よりこうした対話の実施に用意がある旨表明してきたし、予定通り60日以内に枠組とモデルについて合意に至った。基本的に今回の協議は論理的なものであった。我々の他国への提案は、ラリジャニ SNSC書記とソラナ EU 上級代表、エルバラダイ IAEA 事務局長との間で実施された協議のフォローアップとしてのこのプロセスが今後も継続していくべきだということである。

(2) (イランとIAEAとの合意に対する米国政府の反応について) 米国には何も期待していなかった。イランとIAEAは開始したプロセスを続けていくであろう。我々のIAEAとの協力は続けられており、我々は交渉の用意があり、又、既存の規定に沿ってIAEA責任者と協力する用意がある。我々は同プロセスが核問題解決に資すると信じている。

(3) (新たな対イラン安保理決議が採択された場合、イランとIAEAとの協力が如何なる変化が生まれるかとの問いに対し) いずれにせよ、決議の採択は我々とIAEAとの協力のあり方に影響を及ぼし、我々は自らの決定をそれに基づいてとるであろう。

5. エジプトとの関係

(イランが地域の不安定化を促しているとの最近のアブルゲイト・エジプト外相の発言について) アブルゲイト外相の発言が個人的な立場であったか、エジプト政府の公式な立場であったか疑わしい。我々としては、地域情勢を巡ってなされる発言は、現実的な視点に即していることを期待する。イランは域外諸国により生み出され、増幅される地域の危機において、常に友好的で建設的な役割を果たしてきた。